



Sun Control Station

AllStart モジュール

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-5196-10
2003 年 12 月, Revision A

コメントの宛先: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, JavaServer Pages, JSP, JumpStart, Netra, Sun Cobalt, Sun Cobalt RaQ, Sun Cobalt CacheRaQ, Sun Cobalt Qube, Sun Fire, および Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Netscape および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Control Station AllStart Module
Part No: 817-3605-10
Revision A



Adobe PostScript

目次

- 1. はじめに 1
 - 必要条件 2
 - 概要 3
 - ペイロードの作成 3
 - プロファイルの作成 4
 - クライアントの指定 4
 - クライアントの有効化または無効化 5
 - クライアントへのペイロードとプロファイルのインストール 5
 - Sun Control Station への新規クライアントのインポート 5
 - 一般情報 6
 - 「Task Progress」ダイアログ 6
- 2. AllStart の機能 7
 - ファイル 7
 - ファイルの追加 7
 - ファイルの削除 9
 - ディストリビューション 10
 - ディストリビューションの追加 10
 - ディストリビューションの修正 13
 - ディストリビューションの削除 14

ペイロード	14
ペイロードの追加	14
ペイロードの表示	16
ペイロードの修正	17
ペイロードの削除	18
プロファイル	18
プロファイルの追加	19
プロファイルの表示	28
プロファイルの修正	28
プロファイルの削除	29
クライアント	29
クライアントの追加	29
新規クライアントの追加	30
管理対象ホストのクライアントとしての追加	33
クライアントリストのインポート	34
クライアントリストの XML 書式	35
クライアントの有効化	36
クライアントの無効化	37
クライアントの表示	37
クライアントの修正	38
クライアントの削除	38
サービス	39
DCHP 情報の参照	39
DCHP 設定の修正	40
AutoDiscovery 機能	43
クライアントの AutoDiscovery 向け設定	43
3. カスタマイズされたカーネルとトラブルシューティングについて	47
カスタマイズされたカーネルの使用	47

Sun Fire V60x サーバおよび Sun Fire V65x サーバに必要なデバイスドライバ	48
Ethernet ドライバ	48
SCSI ドライバ	49
トラブルシューティング	49
起動時の問題	49
インストール時の問題	50

第1章

はじめに

近年、Linux と Solaris™ の混在するデータが増えています。Sun™ Control Station は、そのようなシステムの多様性をサポートするために設計された統合型管理ソリューションです。

システム管理者にとって、クライアント上での初期インストールと設定に関連するタスクを単純化し、自動化すること、また多数のクライアントに特定の構成でインストール可能であることが、システム管理における主要な関心事となっています。

AllStart コントロールモジュールを使うと、Kickstart テクノロジーと JumpStart™ テクノロジーを統合し、Linux ベースのシステムと Solaris ベースのシステムの双方を高速かつ統一化された手法でインストール、カスタマイズできます。

Kickstart は Red Hat 機能の 1 つで、下に示すような Red Hat Linux インストール時のほとんどの作業を自動化します。

- 言語選択
- ネットワーク構成とディストリビューションソースの選択
- キーボード選択
- ブートローダーのインストール
- ディスクのパーティションとファイルシステムの生成
- マウス選択
- X Window システムサーバ設定
- タイムゾーン選択
- (初期) ルートパスワード選択
- ファイアウォールの設定
- セキュリティオプションの設定 (md5、yp など)
- 配布ペイロードのカスタマイズ

Kickstart では、通常はキーボードを使って入力するような情報を設定ファイルに含めることにより、インストールプロセスを自動的に実行できます。Kickstart はまた、Red Hat Linux のディストリビューションに含まれていないソフトウェアを追加インストールするために使うこともできます。

Solaris JumpStart ソフトウェアは自動化されたシステムであり、ユーザーの介入を必要とすることなく Solaris ベースのシステムを対象のネットワーク上のどこにでもインストールし、セットアップすることができます。Solaris ベースのシステムを大規模なネットワークでインストールまたはアップグレードする、あるいは頻繁にインストールまたはアップグレードを行う必要のある企業内のシステム管理者であれば、Solaris JumpStart の機能を大いに利用する機会があります。JumpStart ソフトウェアを利用すれば、Solaris OS とアプリケーションソフトウェアを統合インストールサーバに配置することが可能で、上級管理者がインストールプロセスをカスタマイズすることもできます。

注 - 本バージョンの AllStart には、Red Hat Kickstart 機能だけが含まれています。Solaris JumpStart の機能は、Sun Control Station バージョン 2.1 で利用できるようになる予定です。

AllStart コントロールモジュールは、ソフトウェアペイロードの作成、クライアントプロファイルの定義、およびシステムインストールとアップグレードのモニタ / 確認用の共通ユーザーインタフェースを提供します。

このモジュールで可能な作業は、次のとおりです。

- ファイルや RPM を選択し、クライアントに読み込む。
- 異なる OS ディストリビューションを選択し、クライアントに読み込む。
- ファイルや OS ディストリビューションで構成する、カスタマイズされたペイロードを作成する。
- 設定情報を含むプロファイルを作成する。
- ペイロードとプロファイルをロードするクライアントを追加する (クライアントの MAC [Media Access Layer] アドレスを使用)。

必要条件

AllStart コントロールモジュールを正しく動作させるためには、次の条件をすべて満たす必要があります。

- Sun Control Station からのペイロードを取得するため、クライアントが「ネットブート」用に設定されていること。
- AllStart コントロールモジュールを動作させるコントロールステーションと同一のサブネット上に、他の DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバが存在しないこと。
- 下に示すソフトウェアコンポーネントがクライアントにインストールされていること。
 - DHCP デーモン (dhcpd)
 - TFTP (Trivial File Transfer Protocol)
 - HTTP (Hypertext Transfer Protocol)

- Network Files Sharing デーモン (nfsd)
- Sun Control Station 2.0 ソフトウェアを動作させるサーバ上に OS ディストリビューション (配布版 OS) の ISO イメージを保管する場合は、ハードディスクドライブ (HDD) に十分な管理容量を確保してください。

たとえば、通常の Linux OS ディストリビューションは約 600-800 M バイト程度になります。さらに、それら ISO ファイルはペイロードの作成時に他のディレクトリにコピーされるため、使用されるディスク容量はその倍を見積もる必要があります。

アップロード中に ISO イメージはマウントされ、RPM ファイルは /scs/allstart.iso/ ディレクトリにコピーされます。OS ディストリビューションの読み込みが成功すれば、ISO イメージは削除できます。

概要

注 – 手順と UI 画面に関する説明については、第 2 章「AllStart の機能」を参照してください。

AllStart モジュールを使用するための手順は、大きく分けると次に示す 4 つの作業から構成されます。

1. ファイルとディストリビューションからペイロードを作成する。
2. 設定情報を含むプロファイルを作成する。
3. ペイロードとプロファイルをインストールするクライアントを選択し、クライアントエントリを有効化する。
4. ネットワークから起動 (「ネットブート」) するクライアントを設定し、そのクライアントを再起動して Sun Control Station からペイロードとプロファイルを受け取るようにする。

ペイロードの作成

まず始めに、「ペイロード」を作成します。ペイロードは、OS ディストリビューションと、それと共にバンドルされる個別ファイルから構成されます。

ペイロードに含めたい OS ディストリビューションのコンポーネントを選択できません。個別ファイルは、ディストリビューションのインストール後に、クライアント上にインストールされます。

それらファイルやディストリビューションは、ローカルに保管あるいは CD-ROM 上に保管できます。ローカルに保管する場合、ディストリビューションは /scs/allstart.iso/ に保存する必要があります。

それぞれのペイロードには、一意の、記述的な名前を設定します。

プロファイルの作成

次に、「プロファイル」の作成を行います。プロファイルとは、ペイロードに従ってクライアントに適用される設定情報を含むものです。セキュリティに関する設定も、プロファイルに設定できます。

プロファイル内には、次のような項目が含まれます。

- デフォルト言語
- キーボードの種類
- マウスの種類
- 3 ボタンマウスをエミュレートするかどうかの選択
- 設定するクライアントが配置されるタイムゾーン
- クライアント用ルートパスワード
- ペイロードインストール後にクライアントを再起動するかどうかの選択
- ブートローダーオプション
- HDD 向けのパーティションオプション
- 認証情報
- X Configuration
- カスタムスクリプトオプション

クライアントの指定

その後で、ペイロードとプロファイルをインストールするクライアントを指定します。

ここでは、次に示すパラメータに関する情報を入力します。

- MAC アドレス
- インストール IP アドレス
- インストールの種類
- シリアルコンソール用出力ポート
- シリアルコンソールのボーレート
- ペイロードとプロファイルの読み込みに介するインストールネットワークインタフェース (ethx)
- 読み込むペイロード
- 読み込むプロファイル
- クライアント上のネットワークインタフェースに関する情報

クライアントの有効化または無効化

クライアントエントリを作成した後、「AllStart Clients」テーブル内でそのクライアントを「有効化」します。

クライアントを有効化することは、Software Management モジュール内のパッケージファイルをパブリッシュすることと似ています。Software Management では、パッケージファイルをコントロールステーションに読み込んだ後、そのパッケージファイルを「パブリッシュ」して、管理対象のホストやその他のコントロールステーションから見えるようにする必要があります。

同様に、AllStart でも AllStart Clients テーブル内のクライアントエントリを有効化して、ネットワーク上の対象のクライアントに見えるようにする必要があります。

クライアントエントリの有効化を行わなければ、そのクライアントエントリが「見え」ないため、ネットブートを行っても、そのクライアントはペイロードとプロファイルを受け取ることはできません。

クライアントへのペイロードとプロファイルのインストール

最後に、クライアントをネットワークから起動するように設定します。

この設定を行うことで、クライアントを再起動すると、クライアントがコントロールステーションからペイロードとプロファイルを「pull」動作で引き出せるようになります。また、この動作に対しては、「AllStart Clients」テーブル内でクライアントエントリを有効化する必要があります。

注 - インストールは、Sun Control Station からクライアントへの、アクティブな「push」操作ではありません。クライアントは、コントロールステーションから、ペイロードとプロファイルを「pull」しなければなりません。つまり、「AllStart Clients」テーブル内のクライアントエントリにしたがって、クライアントはペイロードとプロファイルを受け取ることになります。

Sun Control Station への新規クライアントのインポート

クライアントにペイロードとプロファイルをインストールした後は、Add Host 機能 (「Administration」 > 「Hosts」 > 「Add」) を使用して、Sun Control Station フレームワークにクライアントをインポートできます。

コントロールステーションエージェント RPM を作成したペイロードにエクストラファイルとして追加できますが、手動で行う必要があります。Sun Control Station は、このエージェントがクライアント上にロードされている場合にのみ、そのクライアントをインポートできます。

新規クライアントのインポート方法についての詳細は、『Sun Control Station - 管理者マニュアル』(Part No. 817-5194-10) を参照してください。

一般情報

「Task Progress」ダイアログ

プロファイルの保存やディストリビューションのアップロードなどのタスクを起動すると、Task Progress ダイアログが表示されます。このダイアログには、タスクの現在の状態を示す「Status」フィールドと進行状況バーが表示されます。進行状況バーが 100% になったら、タスクは完了です。

現在のタスクの実行中に UI で別のタスクを実行したい場合には、「Task Progress」ダイアログをバックグラウンドに移動できます。バックグラウンドに移動するには、進行状況バーの下にある「Run Task In Background」ボタンをクリックします。

「Task Progress」ダイアログに戻るには、左側の「Administration」>「Tasks」を選択します。タスクのテーブルが表示されます。タスクがまだ実行中の場合は、「Duration」列にステータスメッセージが表示されます。この列の進行状況バーのアイコンをクリックすると、このタスクの「Task Progress」ダイアログが再表示されます。

タスクが完了し、進行状況バーが 100% に達すると、「Task Progress」ダイアログの下に「Done」と「View Events」の 2 つのボタンが表示されます。

- 完了したタスクに関連するイベントのリストを表示するには、「View Events」をクリックします。「Events For <タスク>」テーブルが表示されます。右上にある上矢印のアイコンをクリックすると、「Tasks」テーブルが表示されます。
- 前の画面に戻るには、「Done」をクリックします。

第2章

AllStart の機能

この章では、Sun™ Control Station の AllStart コントロールモジュールで利用可能な機能とサービスについて説明します。

注 – この章に示すほとんどの手順では、最初のステップで左側のメニューバーにある「AllStart」をクリックし、2番目のステップでサブメニューの項目をクリックします。

操作手順の説明を簡略化するため、選択すべきメニューコマンドを角括弧に入れて表記します。

たとえば、「AllStart」>「Clients」は、左側のメニューバーから「AllStart」をクリックし、次にサブメニューから「Clients」を選んでクリックすることを意味します。

ファイル

ファイルの追加

リモートロケーション、あるいはコントロールステーション上のローカルディレクトリからファイルを追加できます。

リモートロケーションからファイルを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」>「Files」を選択します。
「AllStart Files」テーブルが表示されます。

2. 右下の「Add」をクリックします。
「Add File from Remote Location」テーブルが表示されます (図 2-1 を参照)。
3. プルダウンメニューからファイルの種類を選択します。ISO、RPM、または file を選択します。
4. 次のどちらかの方法で、ファイルの位置を認識させます。
 - 「File」の左にあるラジオボタンをクリックし、パスまたはファイル名を入力するか、「参照...」をクリックする。
 - 「URL」の左にあるラジオボタンをクリックし、ファイルの URL を入力する。
5. 「Upload Now」をクリックする。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

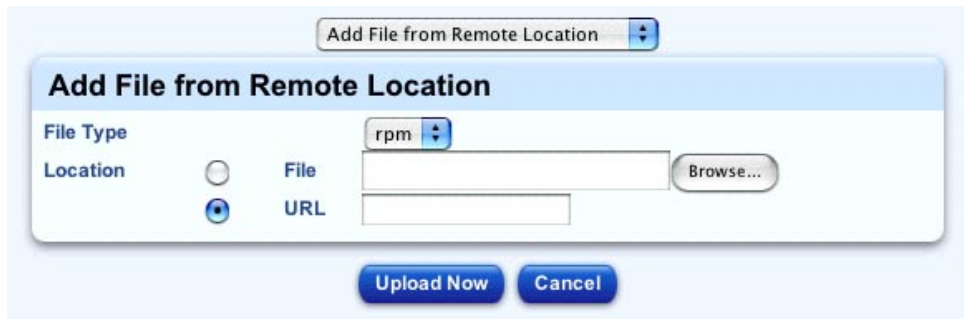


図 2-1 「Add File from Remote Location」テーブル

コントロールステーション上のローカルファイルシステムからファイルを追加する手順は、次のとおりです。

注 - この画面に表示するには、コントロールステーション上の /scs/allstart.iso ディレクトリに対象のファイルを読み込む必要があります。

1. 「AllStart」 > 「Files」を選択します。
「AllStart Files」テーブルが表示されます。
2. 右下の「Add」をクリックします。
「Add File from Remote Location」テーブルが表示されます。
3. テーブル上のプルダウンメニューから、「Add File(s) from Local Filesystem」を選択します。
「Add File(s) from Local Filesystem」テーブルが表示されます (図 2-2 を参照)。

4. プルダウンメニューからファイルの種類を選択します。ISO、RPM、または file を選択します。
5. 「Local Files」スクロールウィンドウで、読み込むファイルを選択します。
6. 「Add」をクリックして、ファイルを「Files to Add」スクロールウィンドウに移動します。
7. ファイルの選択が完了したら、「Upload Now」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

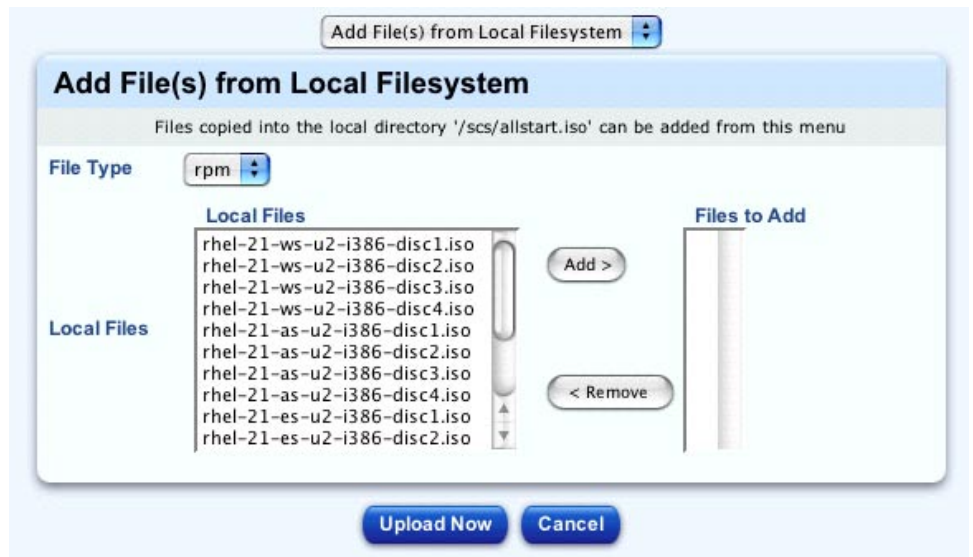


図 2-2 「Add File(s) from Local Filesystem」テーブル

ファイルの削除

「AllStart Files」テーブルからファイルを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」> 「Files」を選択します。
「AllStart Files」テーブルが表示されます。
2. ファイルをクリックして選択します。「Select All」をクリックすると、リスト内のすべてのファイルが選択されます。
3. 右下の「Delete」をクリックします。
ダイアログが表示され、削除の実行を確認します。

4. 「Delete」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

ディストリビューション

ディストリビューションを、追加、修正、削除できます。

注 - ディストリビューションに、カスタマイズされたカーネルを使うこともできます。詳細は、47 ページの「カスタマイズされたカーネルの使用」を参照してください。

ディストリビューションの追加

CD-ROM またはローカルディレクトリからディストリビューションを追加できます。

注 - CD-ROM から OS ディストリビューションをアップロードする場合、「Task Progress」ダイアログが表示されている間に、「Put Task in Background」オプションをクリックしないでください。

クリックすると、次の CD-ROM を挿入できなくなり、ディストリビューションが完全な形でアップロードできません。

誤ってタスクをバックグラウンドに移行してしまった場合は、「AllStart Distributions」テーブルからそのディストリビューションを削除して、作業を始めからやり直す必要があります。

CD-ROM からディストリビューションを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Distributions」を選択します。
「AllStart Distributions」テーブルが表示されます。
2. 右下の「Add」をクリックします。
「Upload Distribution from CD-ROM」テーブルが表示されます (図 2-3 を参照)。
3. そのディストリビューションに関する説明を入力します。

注 - それぞれのディストリビューションについて、一意の、記述的な名前を設定するようお勧めします。システムは、この記述に基いてディストリビューションを区別しています。

4. CD-ROM へのデフォルトパスは、`/dev/cdrom` です。

必要であれば、このパスは修正できます。

5. 「Upload Now」をクリックする。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

注 - 「Put Task in Background」オプションをクリックしないでください。

クリックすると、次の CD-ROM を挿入できなくなり、ディストリビューションを完全な形でアップロードできません。

誤ってタスクをバックグラウンドに移行してしまった場合は、「AllStart Distributions」テーブルからそのディストリビューションを削除して、作業を始めからやり直す必要があります。



図 2-3 「Upload Distribution from CD-ROM」テーブル

ローカルディレクトリからディストリビューションを追加する手順は、次のとおりです。

注 - この方法で作業する場合、「Distribution Upload」テーブルのスクロールウィンドウにファイルを表示するためには、物理的な `.iso` ファイルをローカルファイルシステムの `/scs/allstart.iso/*` ディレクトリに読み込む必要があります。

注 - ローカルディレクトリから利用できるディストリビューションを表示するときは、特定のディストリビューションに対する *.iso ファイルが名前でソートされます。ファイル名には一般に、rhel-21-as-u2-i386-disc1.iso のようなディスク番号が含まれます。

必ず、特定のディストリビューションに対するすべての *.iso ファイルをすべて選択し、一度に転送するようにしてください。

1. 「AllStart」 > 「Distributions」 を選択します。
「AllStart Distributions」 テーブルが表示されます。
2. 右下の「Add」 をクリックします。
「Upload Distribution from CD-ROM」 テーブルが表示されます。
3. テーブルの上のプルダウンメニューから、「Add Distribution from Local ISOs」 を選択します。
「Distribution Upload」 テーブルが表示されます (図 2-4 を参照)。
4. そのディストリビューションに関する説明を入力します。

注 - それぞれのディストリビューションについて、一意の、記述的な名前を設定するようお勧めします。システムは、この記述に基づいてディストリビューションを区別します。

5. 「Local Files」 スクロールウィンドウで、読み込むファイルを選択します。
6. 「Add」 をクリックして、ファイルを「Distro Files」 スクロールウィンドウに移動します。
7. ファイルの選択が完了したら、「Upload Now」 をクリックします。
「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

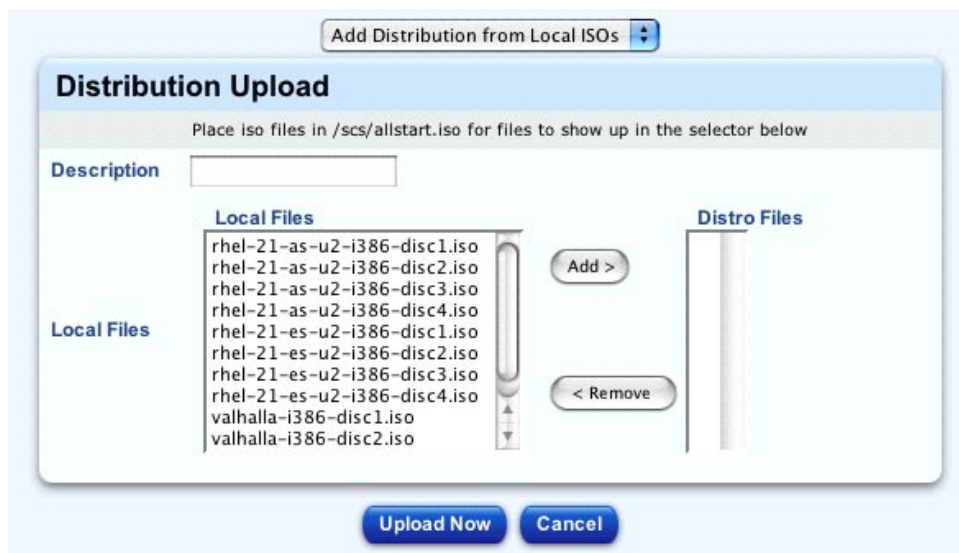


図 2-4 「Distribution Upload」 テーブル

ディストリビューションの修正

注 - 「Modify」 オプションを使用しても、ディストリビューションに関連付けられているファイルを変更することはできません。それらのファイルを変更するには、ディストリビューションを新しく作成する必要があります。

ディストリビューションを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Distributions」 を選択します。
「AllStart Distributions」 テーブルが表示されます。
2. ディストリビューションをクリックして選択します。
3. 右下の「Modify」 をクリックします。
「Modify Distribution Info」 テーブルが表示されます。
4. ディストリビューションの説明を修正します。

注 - それぞれのディストリビューションについて、一意の、記述的な名前を設定するようお勧めします。システムは、この記述に基いてディストリビューションを区別します。

5. 「Save」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

ディストリビューションの削除

「AllStart Distributions」テーブルからディストリビューションを削除する手順は、次のとおりです。

注 - ディストリビューションがペイロードを参照している場合には、そのディストリビューションを削除できません。まず、当該ペイロードを修正、もしくは削除する必要があります。

1. 「AllStart」 > 「Distributions」を選択します。
「AllStart Distributions」テーブルが表示されます。
2. ディストリビューションをクリックして選択します。「Select All」をクリックすれば、リスト内のすべてのディストリビューションが選択されます。
3. 右下の「Delete」をクリックします。
ディストリビューションがペイロードを参照している場合は、そのディストリビューションを削除できません。
ディストリビューションがペイロードを参照していない場合は、ダイアログが表示され、削除の確認を行います。
4. 「Delete」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

ペイロード

ペイロードを、追加、修正、削除できます。

ペイロードの追加

ペイロードを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Payloads」を選択します。
「AllStart Payloads」テーブルが表示されます。

2. 下の「Add」をクリックします。

「Create AllStart Payload」テーブルが表示されます。

3. 下に示すフィールドを設定します。

- 「Payload Name」 - そのペイロードについて、一意の、記述的な名前を入力します。

注 - それぞれのペイロードについて、一意の、記述的な名前を設定するようお勧めします。システムは、この記述に基いてペイロードを区別します。

- 「Payload Description」 - そのペイロードに関する説明を入力します。
- 「Distribution」 - プルダウンメニューから、そのペイロードに関連付けるディストリビューションを選択します。

4. 「Next」をクリックします。

「AllStart Payload Distribution Specific Options」テーブルが表示されます (図 2-5 を参照)。

5. 「Groups Not Loaded」スクロールウィンドウで、ロードしないグループを選択します。

「Distribution Groups」とは、たとえば、DNS サーバ、ゲームやエンターテイメントサポート、印刷サポート、Emacs サポートなど、機能に応じて読み込む RPM のグループです。

「Everything」エントリを選択すると、ディストリビューション内のすべての RPM が追加されます。

追加するグループがわからないときは、すべてのグループを追加してください。

6. 「Add」をクリックして、グループを「Groups Loaded」スクロールウィンドウに移動します。

7. 「Files Not Loaded」スクロールウィンドウで、ロードしないファイルを選択します。

それらは、ベースディストリビューションのロード後にロードされる個々のファイルです。

「Files Not Loaded」スクロールウィンドウには「base-mgmt-agent RPM」が表示されますが、「Files Loaded」スクロールウィンドウに移動する必要があります。

8. 「Add」をクリックして、ファイルを「Files Loaded」スクロールウィンドウに移動します。

9. そのペイロードが Sun Fire™ V60x サーバまたは Sun Fire V65x サーバ上にインストールされる場合は、チェックボックスをクリックして有効化します。

このオプションは、クライアントが Linux インストールの前に必要な SCSI ドライバを読み込めるようにします。

- 「Save」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。
- 完了後、「AllStart Payloads」テーブルが表示されます。設定したペイロードが、サマリーテーブル内に表示されていることを確認してください。

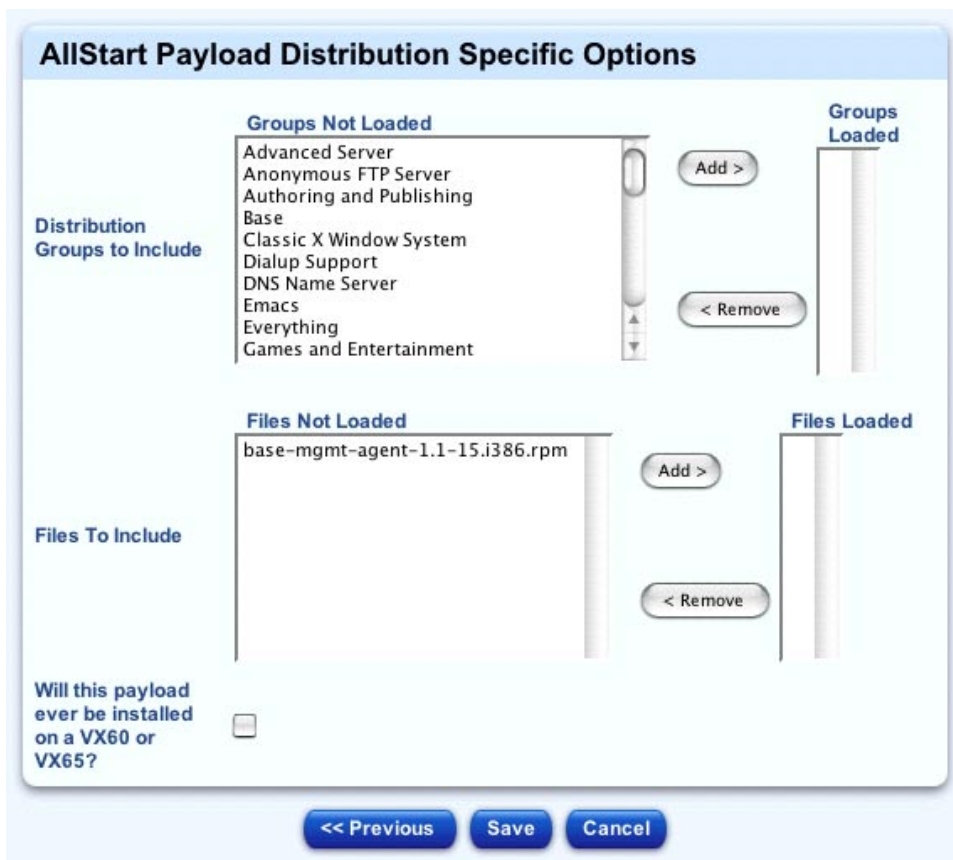


図 2-5 「AllStart Payload Distribution-Specific Options」テーブル

ペイロードの表示

ペイロードに関する情報を表示する手順は、次のとおりです。

- 「AllStart」 > 「Payloads」を選択します。
「AllStart Payloads」テーブルが表示されます。

2. ペイロードをクリックして選択します。
3. 「View」をクリックします。
「View AllStart Payload」テーブルが表示され、次のような情報が提示されます。
 - そのペイロードの名前
 - そのペイロードについての説明
 - そのペイロードに関連付けられているディストリビューション
 - そのペイロードのグループ
 - 個々のペイロードファイル
4. 「Done」をクリックして、「AllStart Payloads」テーブルに戻ります。

ペイロードの修正

ペイロードを修正する手順は次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Payloads」を選択します。
「AllStart Payloads」テーブルが表示されます。
2. ペイロードをクリックして選択します。
3. 下の「Modify」をクリックします。
「Modify AllStart Payload」テーブルが表示されます。
4. 下に示すフィールドを、必要に応じて修正します。
 - 「Payload Name」 - そのペイロードについて、一意の、記述的な名前を入力します。

注 - それぞれのディストリビューションについて、一意の、記述的な名前を設定するようお勧めします。システムは、この記述に基いてディストリビューションを区別します。

- 「Payload Description」 - そのペイロードに関する説明を入力します。
 - 「Distribution」 - プルダウンメニューから、そのペイロードに関連付けるディストリビューションを選択します。
5. 「Next」をクリックします。
「AllStart Payload Distribution-Specific Options」テーブルが表示されます。
 6. 「Distribution Groups」スクロールウィンドウで、移動するグループを選択します。
 7. 「Add」または「Remove」をクリックし、目的のウィンドウにグループを移動します。
 8. 「Files」スクロールウィンドウで、移動するファイルを選択します。

9. 「Add」または「Remove」をクリックし、任意のウィンドウにファイルを移動します。
10. そのペイロードが Sun Fire™ V60x サーバまたは Sun Fire V65x サーバ上にインストールされる場合は、チェックボックスをクリックして有効にします。
このオプションは、クライアントが Linux インストールの前に必要な SCSI ドライバをロードできるようにします。
11. 「Save」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。
12. 完了後、「AllStart Payloads」テーブルが表示されます。ペイロードが、サマリーテーブル内に表示されていることを確認します。

ペイロードの削除

「AllStart Payloads」テーブルからペイロードを削除する手順は、次のとおりです。

注 - ペイロードがクライアントを参照している場合には、そのペイロードを削除できません。まず、当該クライアントを修正、もしくは削除する必要があります。

1. 「AllStart」 > 「Payloads」を選択します。
「AllStart Payloads」テーブルが表示されます。
2. ペイロードをクリックして選択します。「Select All」をクリックすれば、リスト内のすべてのペイロードを選択できます。
3. 右下の「Delete」をクリックします。
 - ペイロードがクライアントを参照している場合は、そのディストリビューションを削除できません。
 - ペイロードがクライアントを参照していない場合は、ダイアログが表示され、削除の確認を行います。
4. 「Delete」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

プロファイル

プロファイルを、追加、修正、削除できます。

プロファイルの追加

注 - ここで説明する手順には、設定パラメータを複数含む UI 画面が多数含まれます。

プロファイルを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Profiles」 を選択します。
「AllStart Profiles」 テーブルが表示されます。
2. 下の「Add」 をクリックします。
「AllStart Profiles」 テーブルが表示されます (図 2-6 を参照)。
3. 下記のパラメータを設定します。
 - 「Profile Name」 - そのプロファイルについて、一意の、記述的な名前を入力します。

注 - それぞれのプロファイルについて、一意の、記述的な名前を設定するようお勧めします。システムは、この記述に基づいてプロファイルを区別します。

- 「Profile Description」 - そのプロファイルに関する説明を入力します。
- 「Default language」 - デフォルト言語
- 「Type of Keyboard」 - キーボードの種類
- 「Type of Mouse」 - マウスの種類
- 「Emulate a 3-button mouse」 - 2 ボタンマウスで、3 ボタンマウスのエミュレーションを有効にする場合、このチェックボックスをクリックします。
- 「タイムゾーン」 - プルダウンメニューから、設定対象ホストが設置されているタイムゾーンを選択します。
- 「Root Password」 - このプロファイルを使用するホストに対するルートパスワードです。
- 「Reboot System After Installation」 - ペイロードとプロファイルのインストールの後でホストを再起動するときは、このチェックボックスをクリックします。

図 2-6 「Add AllStart Profile」 テーブル

4. テーブルの下にある「Next」をクリックします。

「Edit Boot Loader Options」 テーブルが表示されます (図 2-7 を参照)。

5. ブートローダーについて、次のパラメータを設定します。

注 - シリアルコンソールを通じてマシンを構築するときに、ブートローダーとして Grub または LILO を選択する場合には、対応する Grub または LILO カスタマイズスクリプトを追加する必要があります。この作業は、手順 21 で行います。

- 「Install Boot Loader」 - ブートローダーをインストールするときは、このチェックボックスをクリックします。
- 「Choose Boot Loader」 - プルダウンメニューから、ブートローダーを選択します。LILO または GRUB を選択してください。
- 「Kernel Parameters」 - カーネルパラメータ
- GRUB ブートローダーを選択した場合
 - GRUB パスワードを入力します。
 - チェックボックスをクリックすると、GRUB パスワードの暗号化を設定します。
- LILO ブートローダーを選択した場合
 - 1 つ目のチェックボックスをクリックすると、リニアモードの使用を設定します。
 - 2 つ目のチェックボックスをクリックすると、インストール時に 1ba32 モードの使用が強制されます。

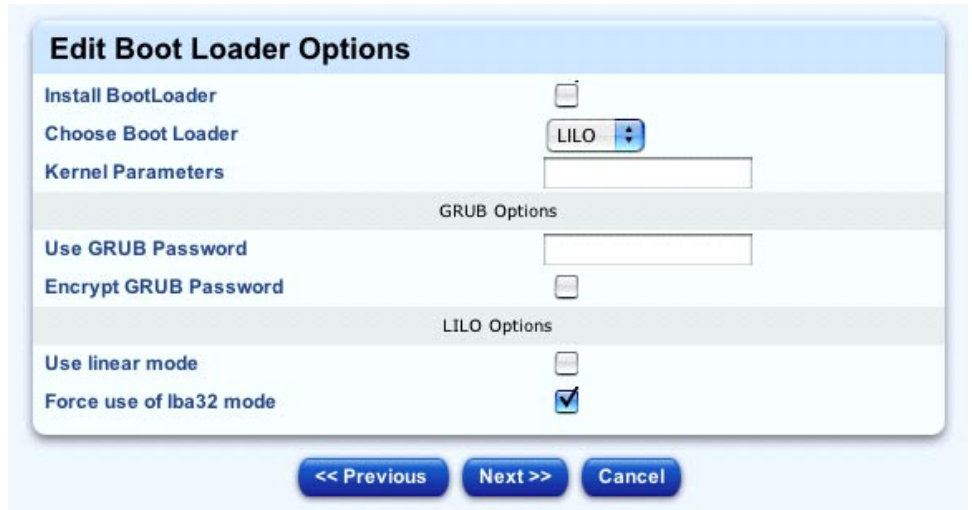


図 2-7 「Edit Boot Loader Options」 テーブル

6. テーブルの下にある「Next」をクリックします。

「Partitions」テーブルが表示されます (図 2-8 を参照)。

7. ラジオボタンをクリックして、3 つのセクションの設定を行います。

- 「Master Boot Record」 - マスターブートレコード
 - 「Clear the Master Boot Record」 - マスターブートレコードをクリアする
 - 「Do not clear the Master Boot Record」 - マスターブートレコードをクリアしない
- 「What Do You Want Done With Existing Partitions」 - 既存パーティションに対する処理
 - 「Remove all existing partitions」 - すべての既存パーティションを削除する
 - 「Remove existing Linux partitions」 - 既存 Linux パーティションを削除する
 - 「Preserve all existing partitions」 - すべての既存パーティションを維持する
- 「What Do You Want Done With Disk Label」 - ディスクラベルに対する処理
 - 「Initialize the disk label」 - ディスクラベルを初期化する
 - 「Do not initialize the disk label」 - ディスクラベルを初期化しない



図 2-8 「Partitions」 テーブル

8. テーブルの下にある「Next」をクリックします。

「Disk Partition Information」 テーブルが表示されます (図 2-9 を参照)。

ディスクパーティション情報

9. さらに別の選択ウィンドウが表示されます。

それぞれのパーティションについて、このセレクトは次の情報を表示します。

- デバイス / パーティション番号
- マウントポイント / RAID
- 種類
- サイズ (MB)

10. このセレクトで、パーティションを追加、編集、または削除できます。

注 – その選択ウィンドウ上の各パーティションに対して、追加、編集、削除などの作業をくり返し行えます。すべてのパーティションの設定が終了したら、「Next」をクリックして、「Authentication」オプションに移動します。

- a. 新規パーティションを追加するには、セレクタの下にある「Add」をクリックします。

「Partition Options」テーブルが表示されます (図 2-10 を参照)。次のパラメータが設定できます。

- マウントポイント
- ファイルシステムの種類
- パーティションのサイズ (メガバイト)

また、次のような追加オプションも設定できます。

- パーティションを固定サイズに制限する。
- パーティションがハードディスクドライブ (HDD) 上のすべての未割り当て領域を使用することを許可する。
- パーティションが最大サイズまで拡張することを許可し、最大サイズ (メガバイト単位) を設定する。
- 特定のドライブ上にパーティションを作成し、そのドライブを認識する。

- b. パーティションを編集するには、セレクタ内のパーティションの隣にあるチェックボックスをクリックし、「Edit」をクリックします。

「Partition Options」テーブルが表示されます。設定可能なパラメータは、新規パーティションを追加する場合と同じです。上記の手順を参照してください。

- c. パーティションを削除するには、セレクタ内のパーティションの左にあるチェックボックスをクリックし、「Delete」をクリックします。

セレクタ画面は更新され、リストからパーティションが削除されます。

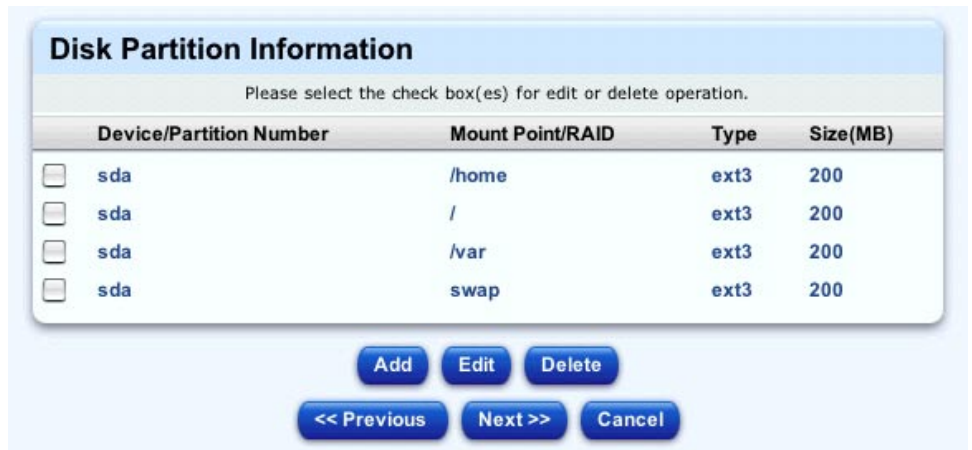


図 2-9 「Disk Partition Information」テーブルの例

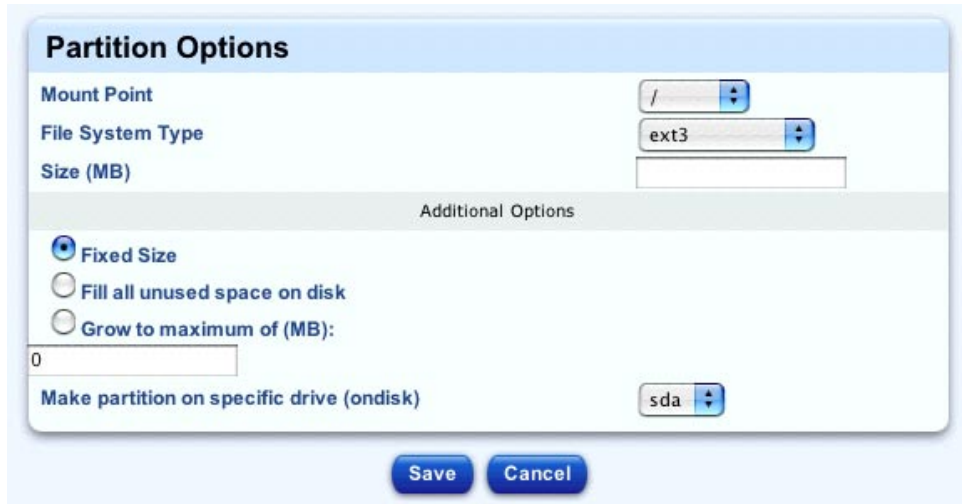


図 2-10 「Partition Options」 テーブル

11. テーブルの下にある「Next」をクリックします。

「Edit Authentication Information」 テーブルが表示されます (図 2-11 を参照)。

認証情報

12. 異なる認証タイプに関して、次のようなパラメータが設定できます。

注 – これらのオプションについては、該当する Red Hat の文書で説明されています。詳細は、<http://www.redhat.com/docs/> を参照してください。

a. シャドウパスワードと MD5 チェックサム

- シャドウパスワードオプションは、デフォルトで有効化されています。
- MD5 の有効化

b. NIS 認証

- NIS の有効化
- NIS ドメインの入力
- NIS サーバ検出のためのブロードキャストの使用
- NIS サーバの入力

c. LDAP 認証

- LDAP の有効化
- LDAP サーバの入力
- LDAP ベース名の入力



図 2-11 「Edit Authentication Information」 テーブル

13. テーブルの下にある「Next」をクリックします。

「X Config Options」 テーブルが表示されます (図 2-12 を参照)。

X Window の設定

14. 下記のパラメータを設定します。

- 最初のチェックボックスをクリックすると、X Window システムが有効になります。

注 - X Window システムが有効にされていない場合、本テーブルのパラメータは無効になります。

- モニターの色深度と解像度の設定。
- プルダウンメニューからのデフォルトデスクトップの選択。GNOME または KDE のいずれかを選択します。
- チェックボックスをクリックすると、起動時に X Window システムが起動します。
- ビデオカードの選択。プルダウンメニューから選択します。
- ビデオカードに使用可能な RAM サイズの選択。プルダウンメニューから選択します。
- モニターの選択。プルダウンメニューから選択します。

- あるいは、使用するモニターの水平同期と垂直同期の値を指定することもできます。

このオプションを使うには、チェックボックスをクリックして、「Horizontal Sync」 / 「Vertical Sync」の値をそれぞれのフィールドに入力します。

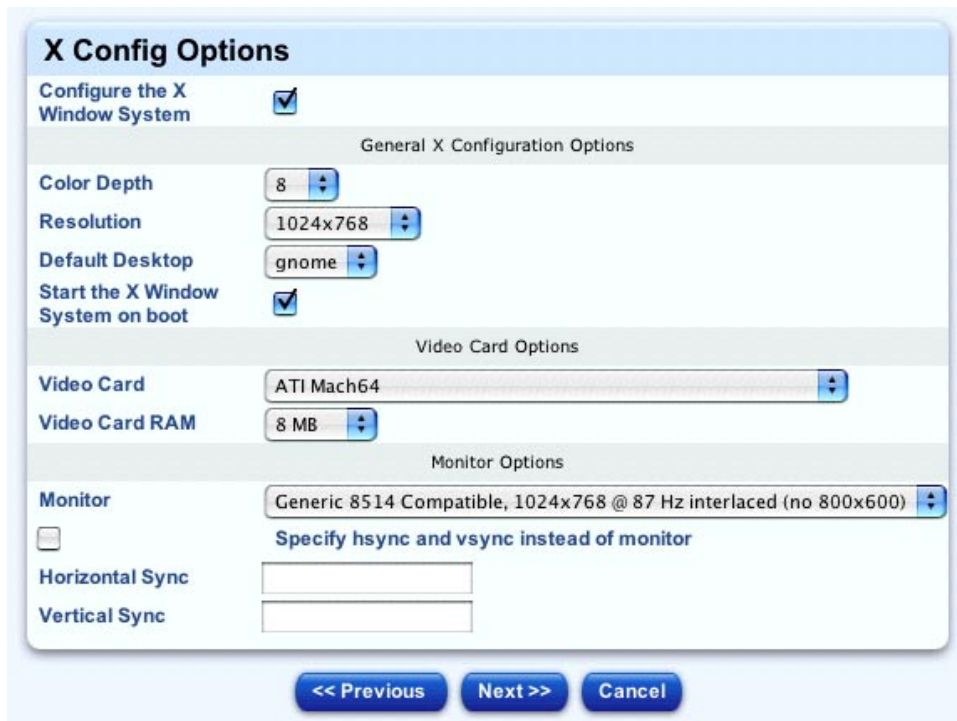


図 2-12 「X Config Options」 テーブル

15. テーブルの下にある「Next」をクリックします。

「Edit Custom Script Options」テーブルが表示されます (図 2-13 を参照)。

カスタムスクリプトオプション

このテーブルには、プロファイルに追加可能なカスタムスクリプトが多数含まれます。

注 - このテーブルに他のカスタムスクリプトをアップロードしたい場合には、「Edit Custom Script Options」テーブルの下にある「Save」をクリックする前にアップロード操作を行う必要があります。

カスタムスクリプトのアップロードを行わない場合は、手順 21 へ進みます。

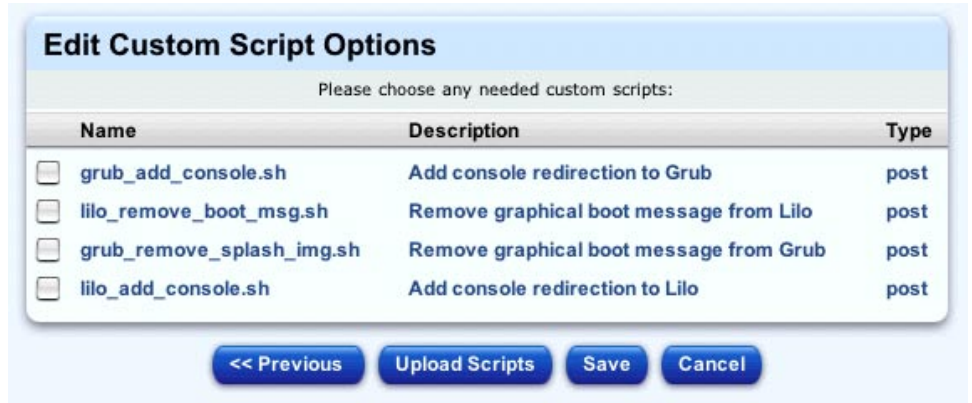


図 2-13 「Edit Custom Script Options」 テーブル

「Edit Custom Script Options」 テーブルにカスタムスクリプトをアップロードする手順は、次のとおりです。

16. 「Upload Scripts」 をクリックします。
「Upload User-defined Custom Scripts」 テーブルが表示されます。
17. 「Add」 をクリックします。
「Add a New Script From Local Filesystem」 テーブルが表示されます。
18. 次の情報を入力します。
 - スクリプトファイルへのパスとファイル名を入力する。または「参照...」をクリックしてスクリプトファイルを選ぶ。
 - スクリプトに関する説明を入力する。
 - スクリプトのタイプを選択する。
 - 「Pre」 - スクリプトをインストールの前に実行します (ドライバなど)。
 - 「Post」 - スクリプトをインストールの後に実行します。
 - 「Postnochroot」 - インストールの後に動作しますが、root としての実行を必要としません。
19. 「Upload Now」 をクリックする。
「Task Progress」 ダイアログが表示されます。
アップロードが完了すると、カスタムスクリプトが「Upload User-defined Custom Scripts」 テーブルに表示されます。
このテーブルから、他のスクリプトを追加、修正、削除できます。
20. 「Edit Custom Script Options」 テーブルに戻るには、「Previous」 をクリックします。

21. チェックボックスをクリックして、プロファイルに追加するカスタムスクリプトを選択します。

注 – シリアルコンソールを通じてマシンを構築している場合、手順 5 でブートローダーに Grub または LILO を選択した場合には、この時点で Grub または LILO のカスタマイズスクリプトを追加します。

それを行わないと、ブートログメッセージとインストールメッセージはコンソールに表示されません。

22. 「Save」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

プロファイルの表示

ペイロードに関する情報を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Profiles」を選択します。
「AllStart Profiles」テーブルが表示されます。
2. プロファイルをクリックして選択します。
3. 「View」をクリックします。
「Detailed Profile View」テーブルが表示され、プロファイルに関するすべてのパラメータが提示されます。
4. 「Done」をクリックして、「AllStart Profiles」テーブルに戻ります。

プロファイルの修正

プロファイルを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Profiles」を選択します。
「AllStart Profiles」テーブルが表示されます。
2. プロファイルをクリックして選択します。
3. 右下の「Modify」をクリックします。
「Modify AllStart Profiles」テーブルが表示されます。以降の手順は、プロファイルの追加に使用する画面と同じ画面での操作になります。19 ページの「プロファイルの追加」を参照してください。

プロファイルの削除

「AllStart Profiles」テーブルからプロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

注 – プロファイルがクライアントを参照している場合には、そのプロファイルを削除できません。まず、該当するクライアントを修正または削除する必要があります。

1. 「AllStart」 > 「Profiles」を選択します。
「AllStart Profiles」テーブルが表示されます。
2. プロファイルをクリックして選択します。「Select All」をクリックすれば、リスト内のすべてのプロファイルを選択できます。
3. 右下の「Delete」をクリックします。
 - プロファイルがクライアントを参照している場合は、そのプロファイルを削除できません。
 - プロファイルがクライアントを参照していない場合は、ダイアログが表示され、削除の確認を行います。
4. 「Delete」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

クライアント

クライアントを、追加、修正、削除できます。また、クライアントを有効化または無効化できます。

図 2-14 に、「AllStart Clients」テーブルの例を示します。

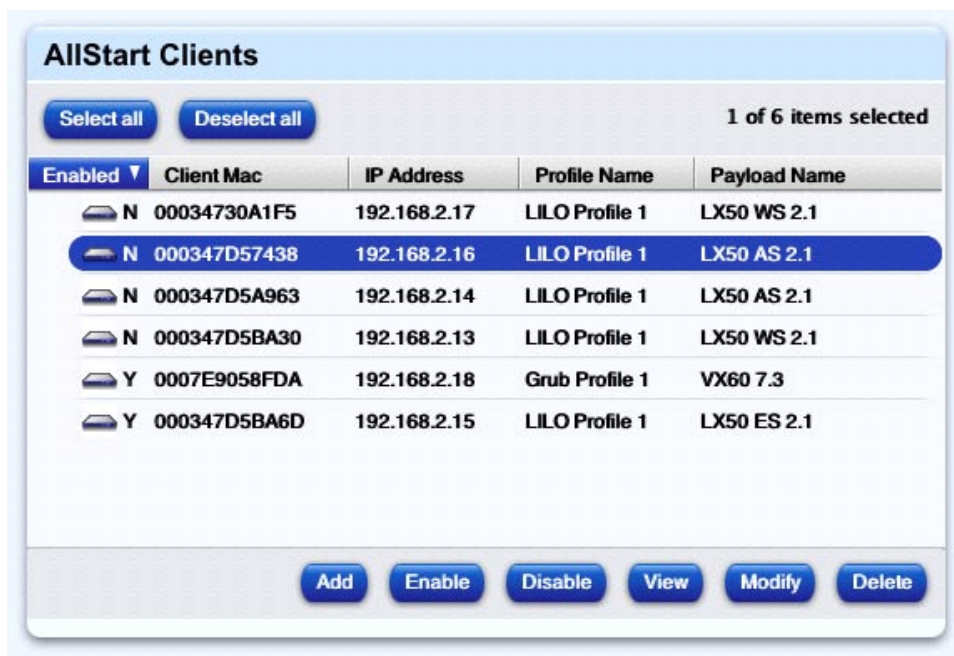
クライアントの追加

新規クライアントは、手動で追加、Sun Control Station 内にすでに存在する管理対象ホストの一覧から選択、あるいは XML フォーマットファイル内のクライアントの一覧からインポートできます。

クライアントをすぐに使用したいときは、必ずそれぞれのクライアントを有効にしてください。また、DHCP 設定を有効にする必要があります。40 ページの「DCHP 設定の修正」を参照してください。

注 - クライアントは、「AllStart Clients」テーブルに追加してから有効にする必要があります。

クライアントが有効にされていないと、AllStart モジュールはそのクライアントの MAC アドレスと IP アドレスに対応するサーバがネットブートしてもペイロードを提供しません。



Enabled	Client Mac	IP Address	Profile Name	Payload Name
N	00034730A1F5	192.168.2.17	LILO Profile 1	LX50 WS 2.1
N	000347D57438	192.168.2.16	LILO Profile 1	LX50 AS 2.1
N	000347D5A963	192.168.2.14	LILO Profile 1	LX50 AS 2.1
N	000347D5BA30	192.168.2.13	LILO Profile 1	LX50 WS 2.1
Y	0007E9058FDA	192.168.2.18	Grub Profile 1	VX60 7.3
Y	000347D5BA6D	192.168.2.15	LILO Profile 1	LX50 ES 2.1

図 2-14 「AllStart Clients」テーブルの例

新規クライアントの追加

新規クライアントを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Clients」を選択します。
「AllStart Clients」テーブルが表示されます。
2. 下の「Add」をクリックします。
「Create AllStart Client」テーブルが表示されます (図 2-15 を参照)。
3. 下記のパラメータを設定します。

注 - ペイロードとプロファイルのインストールに使用されるネットワークインタフェースカード (NIC) の MAC アドレス、または IP アドレスのどちらかを入力する必要があります。両方のフィールドに入力する必要はありません。

- 「MAC Address」 - MAC アドレス。新規クライアントの MAC アドレスを入力します。
- 「Install IP Address」 - 新規クライアントの IP アドレスを入力します。
- 「Install Type」 - インストール手段を選択します。NFS または HTTP から選択します。
- 「Serial Console」 - 使用するコンソールポートを選択します。
- 「Serial Console Baud」 - コンソールのボーレートを選択します。
- 「Install Network Device」 - ネットワークデバイスを選択します。eth0 または eth1 から選択してください。

注 - Sun Fire™ V60x サーバまたは V65x サーバでは、インストールは 2 つのビルトイン NIC のどちらかで行われる必要があります。

- 「Payload」 - インストールするペイロードの名前を選択します。
- 「Profile」 - インストールするプロファイルの名前を選択します。

4. テーブルの下にある「Next」をクリックします。

「Network Interfaces」テーブルが表示されます (図 2-16 を参照)。

このテーブルでは、クライアントの NIC に関する情報を設定します。

5. 下の「Add」をクリックします。

「Enter Network Interface Information」テーブルが表示されます (図 2-17 を参照)。

6. 下記のパラメータを設定します。

- ネットワークデバイス
- ネットワークタイプ
 - 「Static」を選択した場合は、下記のフィールドに入力する必要があります。
 - 「DHCP」を選択した場合は、テーブルの下の「Done」をクリックしてください。
 - 「None」を選択した場合は、テーブルの下の「Done」をクリックしてください。
- IP アドレス
- ネットマスク
- ゲートウェイ
- ホスト名
- ネームサーバ

7. テーブルの下にある「Done」をクリックします。

「Network Interfaces」テーブルが更新され、新規デバイスが追加されます。

8. 次に、他のデバイスの追加、あるいは既存デバイスに関する他のオペレーションを実行することができます。

- 他のデバイスを追加するには、下の「Add」をクリックします。「Enter Network Information」テーブルが表示されます。
- 既存デバイスの設定を編集するには、リストからデバイスを選択し、下の「Edit」をクリックします。「Enter Network Information」テーブルが表示されます。
- 既存デバイスをリストから削除するには、対象のデバイスを選択し、下の「Delete」をクリックします。テーブルが更新され、デバイスが削除されます。

9. ネットワークインタフェースの設定が完了したら、テーブルの下の「Save」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

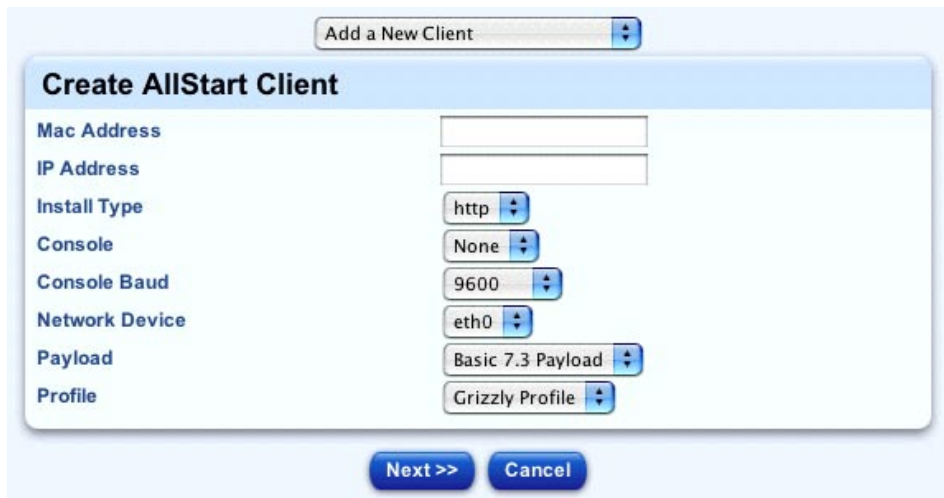


図 2-15 「Create AllStart Client」テーブル



図 2-16 「Network Interfaces」 テーブル

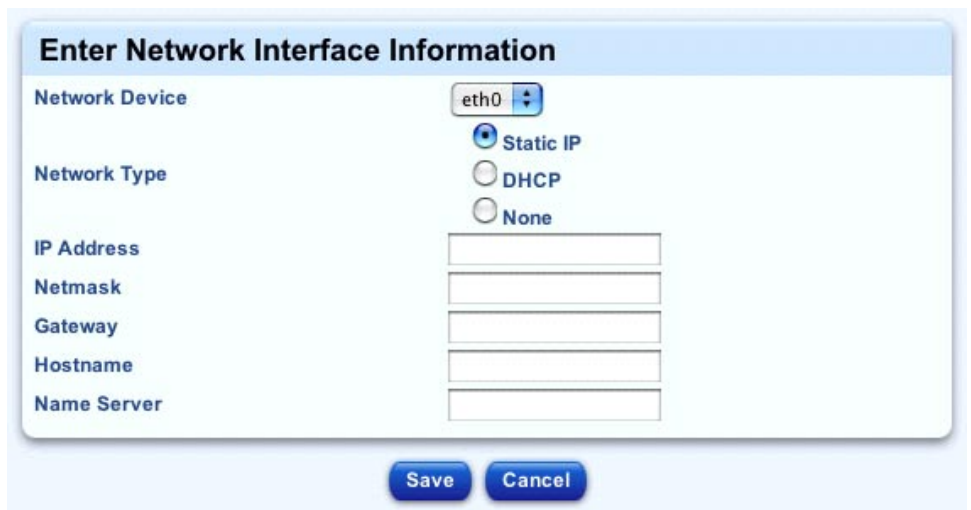


図 2-17 「Enter Network Interface Information」 テーブル

管理対象ホストのクライアントとしての追加

コントロールステーションにすでにホストをインポートしている場合、AllStart クライアントとして追加する管理対象ホストを選択できます。

管理対象ホストをクライアントとして追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Clients」 を選択します。
「AllStart Clients」 テーブルが表示されます。
2. テーブルの上のプルダウンメニューから、「Add a Managed Host as a Client」 を選択します。
「Add AllStart Client from Managed Host」 テーブルが表示されます。
3. 管理対象ホストをクリックして選択します。
追加できるのは、一度に 1 つの管理対象ホストだけです。
4. 右下の「Add」 をクリックします。
「Create AllStart Client」 テーブルが表示されます。
5. 下記のパラメータを設定します。

注 - 管理対象ホストはすでにネットワークに接続され、IP アドレスを割り当てられている必要があります。また、MAC アドレスフィールドにも、すでに値が設定されているはずですが、これら 2 つのパラメータは変更できません。

- 「Install Type」 - インストールのタイプを選択します。NFS または HTTP から選択します。
 - 「Serial Console」 - 使用するコンソールポートを選択します。
 - 「Serial Console Baud」 - コンソールのボーレートを選択します。
 - 「Payload」 - インストールするペイロードの名前を選択します。
 - 「Profile」 - インストールするプロファイルの名前を選択します。
6. テーブルの下にある「Done」 をクリックします。
「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

クライアントリストのインポート

XML 形式のファイルにクライアントのリストを記述してインポートすることもできます。詳細は、35 ページの「クライアントリストの XML 書式」を参照してください。

クライアントリストのファイルをインポートする手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Clients」 を選択します。
「AllStart Clients」 テーブルが表示されます。
2. テーブルの上のプルダウンメニューから、「Add Clients from a File」 を選択します。
「Local Client Definitions From A File」 テーブルが表示されます。

3. XML ファイルへのパスとファイル名を入力するか、あるいは「参照...」をクリックしてスクリプトファイルの位置を認識させます。
4. テーブルの下にある「Create Clients」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

クライアントリストの XML 書式

ここでは、クライアントのリストを含む XML 形式のファイルの書式について、例を挙げて説明します。

ファイル名の拡張子は、.xml です。

以下のファイル例には、2つのクライアントに関する情報が含まれています。1つ目のクライアントに2つのネットワークデバイスを持ち、それぞれ DHCP と静的 IP アドレスで識別されます。2つ目のクライアントに1つのネットワークデバイスがあり、静的 IP アドレスで識別されます。

ファイル例

```
<clients>
  <client>
    <mac value = "00:03:47:D5:74:7A" />
    <ip value = "192.168.0.3" />
    <bootloader value = "pxe" />
    <install_type value = "http" />
    <console value = "none" />
    <console_baud value = "9600" />
    <network_dev value = "eth1" />
    <payload value = "bsppayload" />
    <profile value = "bspprofile" />
    <network>
      <device value = "eth0" />
      <type value = "dhcp" />
    </network>
    <network>
      <device value = "eth1" />
      <type value = "static" />
      <ip value = "192.168.0.3" />
      <netmask value = "255.255.255.0" />
  </client>
</clients>
```

```
        <gateway value = "192.168.0.1"/>
        <hostname value = "bmula3.sfbay.sun.com"/>
        <nameserver value = "192.168.0.1"/>
    </network>
</client>
<client>
    <mac value = "00:10:4B:0F:93:75"/>
    <ip value = "192.168.0.6"/>
    <bootloader value = "pxe"/>
    <install_type value = "http"/>
    <console value = "none"/>
    <console_baud value = "9600"/>
    <network_dev value = "eth0"/>
    <payload value = "bsppayload"/>
    <profile value = "bspprofile"/>
    <network>
        <device value = "eth0"/>
        <type value = "static"/>
        <ip value = "192.168.0.6"/>
        <netmask value = "255.255.255.0"/>
        <gateway value = "192.168.0.1"/>
        <hostname value = "bmula6.sfbay.sun.com"/>
        <nameserver value = "192.168.0.1"/>
    </network>
</client>
</clients>
```

クライアントの有効化

「AllStart Clients」テーブルの左端の列は有効化（「Enabled」）で、そのクライアントが有効化されていれば「Y」が、有効化されていなければ「N」が表示されます。

有効化されていないクライアントを有効にする手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Clients」を選択します。
「AllStart Clients」テーブルが表示されます。

2. クライアントをクリックして選択します。「Select All」をクリックすると、リスト内のすべてのクライアントが選択されます。
3. 下の「Enable」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

「AllStart Clients」テーブル上で、選択したクライアントの「Enabled」列に「Y」が表示されます。

クライアントの無効化

「AllStart Clients」テーブルの左端の列は有効化（「Enabled」）で、そのクライアントが有効化されていれば「Y」が、有効化されていなければ「N」が表示されます。

有効化されているクライアントを無効にする手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Clients」を選択します。
「AllStart Clients」テーブルが表示されます。
2. クライアントをクリックして選択します。「Select All」をクリックすると、リスト内のすべてのクライアントが選択されます。
3. 下の「Disable」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

「AllStart Clients」テーブル上で、選択したクライアントの「Enabled」列に「N」が表示されます。

クライアントの表示

クライアントに関する情報を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Clients」を選択します。
「AllStart Clients」テーブルが表示されます。
2. クライアントをクリックして選択します。
3. 右下の「View」をクリックします。
「View AllStart Client」テーブルが表示され、次の情報が提示されます。
 - MAC アドレス
 - IP アドレス
 - クライアントの有効化 (Y/N)
 - インストールネットワークデバイス

- シリアルコンソール
- シリアルコンソールボーレート
- ブートローダー
- インストールタイプ
- ペイロードの名前
- プロファイルの名前
- デバイス情報

4. 「Done」をクリックして、「AllStart Clients」テーブルに戻ります。

クライアントの修正

クライアントを修正する手順は次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Clients」を選択します。

「AllStart Clients」テーブルが表示されます。

2. クライアントをクリックして選択します。

3. 右下の「Modify」をクリックします。

「Create AllStart Client」テーブルが表示され、次の情報が提示されます。

MAC アドレスフィールドと IP アドレスフィールドには、現在の情報が表示されますが、変更可能です。

- MAC アドレス
- インストール IP アドレス
- インストールタイプ
- シリアルコンソール
- シリアルコンソールボーレート
- インストールネットワークデバイス
- ペイロード
- プロファイル

4. 下の「Modify」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

クライアントの削除

クライアントを削除する手順は次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Clients」を選択します。

「AllStart Clients」テーブルが表示されます。

2. クライアントをクリックして選択します。「Select All」をクリックすると、リスト内のすべてのクライアントが選択されます。
3. 右下の「Delete」をクリックします。

注 – 有効化されているクライアントは、自動的に無効化されます。

ダイアログが表示され、削除の実行を確認します。

4. 「Delete」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。
「AllStart Clients」テーブルから、クライアントが削除されます。

サービス

次のサービスに対する設定を表示できます。

- DHCP
- NFS
- HTTP

NFS と HTTP は、常に有効化されていなくてはなりません。これら 2 つのサービスは変更できません。

DHCP 設定は修正可能です。

DCHP 情報の参照

現在の DHCP 情報を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Services」を選択します。
「Current Service Settings」テーブルが表示されます (図 2-18 を参照)。
2. テーブルの下にある「View DHCP Info」をクリックします。
「Additional DHCP Settings」テーブルが表示されます。それぞれのエントリについて、ネットワーク、ネットワークマスク、IP アドレスの範囲がテーブルに表示されます。
3. エントリをクリックして選択します。

4. 右下の「Details」をクリックします。

「Detailed DHCP Settings」テーブルが表示されます。テーブルには、次の情報が表示されます。

- ネットワーク
- ネットマスク
- IP レンジ
- ルーター
- DNS サーバ
- DNS サーバ 2
- DNS サーバ 3
- ドメイン
- ドメイン 2

5. 「Done」をクリックして、「Additional DHCP Settings」テーブルに戻ります。

6. 「Previous」をクリックして、「Current Service Settings」テーブルに戻ります。



Current Service Settings	
DHCP Enabled	Y
DHCP Interface	eth0
NFS Enabled	Y
HTTP Enabled	Y

図 2-18 「Current Service Settings」テーブル

DCHP 設定の修正

DHCP 設定を修正する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Services」を選択します。
「Current Service Settings」テーブルが表示されます。
2. テーブルの下にある「Modify」をクリックします。
「Modify Service Settings」テーブルが表示されます。

注 - NFS と HTTP は無効化できません。

3. 下記のパラメータを設定できます。
 - 「DHCP Enabled」 - このチェックボックスをクリックすると、DHCP サービスを有効化 / 無効化できます。
 - 「DHCP Interface」 - プルダウンメニューから、eth0 または eth1 を選択します。
4. DHCP 情報を修正するには、テーブルの下の「Modify DHCP Info」をクリックします。

「Modify DHCP Settings」選択ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、新規 DHCP 情報の追加、既存 DHCP 情報の修正、または DHCP 情報の削除ができます。

注 - DHCP 情報に対する変更を行うときは、必ず最後に「Save」をクリックしてください。保存しないと、変更は有効になりません。

新規 DHCP の情報を追加する

5. 右下の「Add」をクリックします。

「Add New DHCP Settings」テーブルが表示されます (図 2-19 を参照)。下に示すフィールドを設定します。

 - ネットワーク
 - ネットマスク
 - IP レンジ
 - ルーター
 - DNS サーバ
 - DNS サーバ 2
 - DNS サーバ 3
 - ドメイン
 - ドメイン 2
6. 「Save」をクリックします。

「Modify DHCP Settings」選択ウィンドウが表示され、新規 DHCP 情報に関するエントリが提示されます。

図 2-19 「Add New DHCP Settings」 テーブル

DHCP 情報を修正する

7. テーブル内でエントリをクリックして選択します。
8. 右下の「Edit」をクリックします。

「Modify DHCP Settings」テーブルが表示されます。ネットワークとネットマスクに関する情報は、すでに設定されています。

次の項目を編集します。

- IP レンジ (最初のフィールドには下位 IP アドレスを、2 つ目のフィールドには上位 IP アドレスを入力します。)
- ルーター
- DNS サーバ
- DNS サーバ 2
- DNS サーバ 3
- ドメイン
- ドメイン 2

9. 「Save」をクリックします。
「Modify DHCP Settings」選択ウィンドウが表示されます。

DHCP 情報を削除する

10. テーブル内でエントリをクリックして選択します。

11. 右下の「Delete」をクリックします。
ダイアログが表示され、削除の実行を確認します。
12. 「Delete」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。
「Modify DHCP Settings」選択ウィンドウから、DHCP 情報のエントリが削除されます。
13. 「Previous」をクリックして、「Modify Service Settings」テーブルに戻ります。
14. 変更内容を有効にするためには、テーブルの下の「Save」をクリックしてください。

注 – この段階で「Save」をクリックしないと、DHCP 情報への変更が保存されず、有効になりません。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

AutoDiscovery 機能

AllStart コントロールモジュールの AutoDiscovery 機能を使うと、管理対象サーバは自動的に DHCP サーバから IP アドレスを取得し、その IP アドレスに関連するデフォルトペイロードを PXE ブートサーバから取得できます。この機能は、クライアントの MAC アドレスが不明なときなどに便利です。

まず、DHCP テーブルで IP アドレスの範囲を指定します。次に、デフォルトの MAC アドレスを使ってクライアントを作成し、そのクライアントを有効化します。最後に、ホストマシンをネットブートすると、そのホストは AllStart モジュールからネットワーク情報とペイロードを取得します。

クライアントの AutoDiscovery 向け設定

注 – ここに記載する手順では、DHCP サーバがすでに設定され、その DHCP サーバが「AllStart」>「Services」で有効化されていることを前提とします。

設定と有効化が完了していない場合は、39 ページの「サービス」の手順を行ってください。

AutoDiscovery 向けにクライアントを設定する手順は、次のとおりです。

IP アドレスの範囲を指定する

1. 「AllStart」 > 「Services」 を選択します。
「Current Service Settings」 テーブルが表示されます。
2. テーブルの下にある「Modify」 をクリックします。
「Modify Service Settings」 テーブルが表示されます。
3. 「DHCP Enabled」 チェックボックスをクリックします。
4. プルダウンメニューから「DHCP Interface」 を選択します。
eth0 または eth1 から選択してください。
5. テーブルの下にある「Modify DHCP Info」 をクリックします。
「Modify DHCP Settings」 選択ウィンドウが表示されます。

注 – DHCP 情報に対する変更を行うときは、必ず最後に「Save」 をクリックしてください。保存しないと変更が有効になりません。

6. テーブル内でエントリをクリックして選択します。
7. 右下の「Edit」 をクリックします。
「Modify DHCP Settings」 テーブルが表示されます。ネットワークとネットマスクに関する情報は、すでに設定されています。
8. AutoDiscovery に使用する IP アドレスの範囲を入力します。
最初のフィールドには、その範囲の Low IP アドレスを入力し、2 つ目のフィールドには、その範囲の High IP アドレスを入力します。

注 – このテーブルでは、その他のフィールドを入力する必要はありません。

9. 「Save」 をクリックします。
「Modify DHCP Settings」 選択ウィンドウが表示されます。
10. 「Previous」 をクリックして、「Modify Service Settings」 テーブルに戻ります。
11. 変更を行った場合は、テーブルの下の「Save」 をクリックしてください。

注 – この段階で「Save」 をクリックしないと、DHCP 情報への変更が保存されず、有効になりません。

「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

default という名前のクライアントを作成する

12. 「AllStart」 > 「Clients」 を選択します。
「AllStart Clients」 テーブルが表示されます。
13. 下の「Add」 をクリックします。
「Create AllStart Client」 テーブルが表示されます。
14. 「MAC Address」 フィールドに、default と入力します。
15. 「IP Address」 フィールドに、0.0.0.0 と入力します。
16. クライアントを作成する場合と同じように、残りのフィールドを入力します。
 - 「Install Type」 - インストールのタイプを選択します。NFS または HTTP から選択します。
 - 「Serial Console」 - 使用するコンソールポートを選択します。
 - 「Serial Console Baud」 - コンソールのボーレートを選択します。
 - 「Install Network Device」 - ネットワークデバイスを選択します。eth0 または eth1 から選択してください。

注 - Sun Fire™ V60x サーバまたは V65x サーバでは、インストールは 2 つのビルトイン NIC のどちらかで行う必要があります。

- 「Payload」 - インストールするペイロードの名前を選択します。
 - 「Profile」 - インストールするプロファイルの名前を選択します。
17. テーブルの下にある「Next」 をクリックします。
「Network Interfaces」 テーブルが表示されます。このテーブルでは、クライアントの NIC に関する情報を設定します。
 18. 下の「Add」 をクリックします。
「Enter Network Information」 テーブルが表示されます。
 19. 下記のパラメータを設定します。
 - ネットワークデバイス
 - ネットワークタイプ DHCP を選択します。

注 - 「Network Type」 として「Static」 を選択しないでください。すべてのホストが同じ IP アドレスを受け取ることになります。

「None」 を選択すると、DHCP を選択した場合と同じ結果になります。

20. テーブルの下にある「Done」 をクリックします。
「Network Interfaces」 テーブルが更新され、新規デバイスが追加されます。

21. 次に、他のデバイスの追加、あるいは既存のデバイスに別の操作を行うことができます。

- 他のデバイスを追加するには、下の「Add」をクリックします。「Enter Network Information」テーブルが表示されます。
- 既存デバイスの設定を編集するには、リストからデバイスを選択し、下の「Edit」をクリックします。「Enter Network Information」テーブルが表示されます。
- 既存デバイスをリストから削除するには、対象のデバイスを選択し、下の「Delete」をクリックします。テーブルが更新され、デバイスが削除されます。

22. ネットワークインタフェースの設定が完了したら、テーブルの下の「Save」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

default という名前のクライアントを有効にする

23. 「AllStar」 > 「Clients」を選択します。

「AllStart Clients」テーブルが表示されます。

24. default という名前のクライアントをクリックして選択します。

25. 下の「Enable」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

「AllStart Clients」テーブル上で、対象クライアントの「Enabled」列に「Y」が表示されます。

ホストマシンをネットブートする

26. ネットワーク上でホストマシンをネットブートします。

ホストマシンは、default という名前のクライアントを通じて、ネットワーク情報とペイロードを入手します。

第3章

カスタマイズされたカーネルとトラブルシューティングについて

この章では、ディストリビューション内でカスタマイズされたカーネルを使用する方法について説明します。

また、起動時、インストール時に遭遇した問題のトラブルシューティングを行うときに確認すべき事項についても説明します。

カスタマイズされたカーネルの使用

ディストリビューションで、カスタマイズされたカーネルをアップロードできます。

注 – Sun Fire™ V60x サーバまたは Sun Fire V65x サーバ上でカスタマイズされたカーネルを使用するには、最新の SCSI ドライバと Ethernet ドライバが必要です。

48 ページの「Sun Fire V60x サーバおよび Sun Fire V65x サーバに必要なデバイスドライバ」を参照してください。

ペイロード、プロファイル、およびクライアントを作成する方法の詳細は、第2章「AllStart の機能」の該当する手順を参照してください。

カスタマイズされたカーネルを使用する手順は、次のとおりです。

1. Sun Control Station の「Upload Distribution...」テーブルで、ISO ファイルまたは CD-ROM からディストリビューションをアップロードします。

詳細については、10 ページの「ディストリビューションの追加」に記載されている手順を参照してください。

2. コントロールステーションにカスタマイズされたカーネルをダウンロードします。

カスタマイズされたカーネルは、それぞれ専用のディレクトリに保管されている必要があります。

3. コントロールステーション上で、新しいディレクトリを作成します。たとえば、次のコマンドを実行します。

```
mkdir /tmp/update  
cd /tmp/update
```

注 – このディレクトリの名前は自由に設定できます。ただし、カーネル以外のファイルが含まれないようにしてください。

4. 作成したディレクトリに、カスタマイズされたカーネルをコピーします (たとえば、/tmp/update など)。

注 – LOM (Lights Out Management) モジュールを使用している場合には、カーネルソース RPM が含まれるようにしてください。

```
/usr/mgmt/sbin/as_distro_update.pl -n "NAME" -d /tmp/update
```

ここで、NAME は作成したディストリビューションの名前です。

```
/usr/lib/anaconda-runtime/genhdlist /scs/data/X.X/
```

ここで、X.X は、そのディストリビューションのバージョンです。

5. ペイロードを作成します。
6. プロファイルを作成します。
7. クライアントを作成します。
8. クライアントを有効にします。
9. クライアントをネットブートします。

Sun Fire V60x サーバおよび Sun Fire V65x サーバに必要なデバイスドライバ

Ethernet ドライバ

Sun Fire V60x サーバと Sun Fire V65x サーバ上のギガビット Ethernet コントローラには、Intel PRO/1000 Network Interface (e1000) ドライバが必要です。

弊社では、このドライバのバージョン 4.4.19 以降のインストールを推奨しています。バージョン 4.4.19 は、弊社で互換性テストに使用された Ethernet ドライバであり、インストールに問題がなく、事前に設定されたテストケースでもうまく動作することが確認されています。

e1000 ソース tar ファイル内の Intel README ファイルに、このドライバの構築方法が記載されています。この情報は、次の URL から HTML フォーマットでオンラインアクセスできます。

<http://www.intel.com/support/network/adapter/1000/e1000.htm>

Intel ドライバをダウンロードするには、次のサポートサイトを利用してください。

http://appsrv.intel.com/scripts-df/support_intel.asp

- 「e1000 4.4.19」で検索すれば、ダウンロードする当該 tar ファイルが見つかりません。

SCSI ドライバ

Sun Fire V60x サーバおよび Sun Fire V65x サーバは、最新のディストリビューションでのみサポートされる Ultra 320 SCSI コントローラを実装しています。

弊社認定のアドオンカードだけを使用したい場合は、このドライバのバージョン 1.3.7 以降をインストールする必要があります。サン認定のアドオンカードだけを使用したい場合は、このドライバのバージョン 1.3.7 以降をインストールする必要があります。

バージョン 1.3.7 と 1.3.10 は共に、弊社で互換性テストに使用されており、インストールに問題がなく、事前に設定されたテストケースでもうまく動作することが確認されています。

これら最新の SCSI ドライバは、次の開発者向けサイトからダウンロードできます。

<http://people.freebsd.org/~gibbs/linux/>

トラブルシューティング

起動を完了して、クライアントが RPM を読み込んでいれば、インストールは適切に行われています。

起動時の問題

起動時の問題としては、DHCP サーバや PXE 起動などに関わるトラブルが考えられます。

DHCP サーバが動作していない、あるいは PXE 起動を制御しているファイルにエラーがある場合は、起動に失敗することがあります。

そのようなケースでは、次のコマンドを実行してみてください。

```
run tftp localhost
tftp> get pxelinux.0
```

次のような応答を受け取るはずです。

```
Received 10205 bytes in 0.1 seconds
```

この操作が成功しない場合は、次の項目を確認してください。

1. tftp が有効化されていること。

```
chkconfig --list |grep tftp
```

2. xinetd が動作していること。

```
/etc/init.d/xinetd restart
```

3. /tftpboot/pxelinux.0 が存在し、パーミッション 644 に設定されていること。

4. /tftpboot で、パーミッション 755 に設定されていること。

5. dhcpd が起動され、/etc/dhcpd.conf ファイル内にクライアント MAC アドレスのエントリが存在すること。

6. /tftpboot/pxelinux.cfg/netboot-\$mac が存在すること。

7. netboot-\$mac にシンボリックリンクする /tftpboot/pxelinux.cfg ファイル内の hex ファイルが、クライアントの作成時に入力される hex 形式の IP アドレスとなっていること。

インストール時の問題

インストールが失敗するのは、多くの場合、システムが /tftpboot/pxelinux.cfg/netboot-\$mac 内にリストされる ks-\$mac.cfg ファイルを見つけられないためです。

また、システムがインストールに必要なハードウェアが見つけれない (たとえば、適切な SCSI ドライバが読み込めない) ために、この段階でインストールが失敗することもあります。

- NFS の使用時は、portmap および nfs サービスが起動されていることを確認してください。

- HTTP の使用時は、`http://x.x.x.x/allstart/ksconfig/` を参照してみてください。ここで、`<x.x.x.x>` は使用するクライアントの IP アドレスです。

`ksconfig` ファイル内に無効なディスクパーティション設定や無効なパッケージ設定などのエラーがあれば、それを訂正します。

- `/scs/allstart/ksconfig/ks-$mac.cf` ファイル内のエラーを訂正します。

起動処理が完了し、クライアントが RPM を読み込み始めれば、インストールは適切に行われています。

